1．開催概要

展覧会名	ルーヴル美術館展　日常を描く―風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄	
開催施設名	会期	入場者数
国立新美術館	平成 27 年 2 月 21 日～6 月 1 日	66 万人 （開会式・内覧会を含む）
京都市美術館	平成 27 年 6 月 16 日～9 月 27 日	45 万人 （開会式・内覧会を含む）

●開催概要

本展は、ルーヴル美術館の所蔵品から厳選された絵画を中心とする 83 点の作品によって、16 世紀から 19 世紀半ばまでのヨーロッパ風俗画の多様な側面を明らかにしようとする試みであった。

本展の構成において特筆されるのは、国別・年代順ではなく、風俗画の特質を明らかにする 6 つのテーマに沿って、作品を分類・展示したことである。ある国・時代に特化した風俗画展は多くの前例があるが、3 世紀半にわたる時代の各国の風俗画を一堂に会し、その特質をテーマごとに提示する展覧会は世界でも初めてであった。ティツィアーノ、レンブラント、ルーベンス、ムリーリョ、ヴァトー、ブーシェなど各国・各時代を代表する画家たちの作例に加えて、国家補償制度の適用によって、17 世紀オランダ風俗画の代表的作例であるフェルメールの《天文学者》の出品も可能となり、内容の一層の充実を図ることができた。

また、展覧会の導入部分に、日常的情景の描写が見いだされる古代作品を集めたセクション、次いで、風俗画を含む 5 つの絵画ジャンルを紹介するセクションを設け、鑑賞者が西洋絵画の「ジャンル」の理論、「風俗画」の概念について予備知識を得られるように配慮したことも、本展ならではの趣向といえる。

こうしたテーマの独自性、充実した出品内容、展示構成の工夫に加えて、2009 年以来となるルーヴル美術館の大規模な絵画展ということもあり、テレビ、新聞、雑誌、WEB など各種媒体で数多く取り上げられ、「ルーヴル美術館展」への期待度の高さが窺えた。

一般来場者アンケートでは、「風俗画という親しみのあるテーマで良かった」「テーマを絞って開催されたのが良かった」（国立新美術館）、「関西にいながらルーヴル美術館の名画を堪能できて良かった」「風俗画だけを網羅した作品群が圧巻」（京都市美術館）など、好意的な意見が多く寄せられ、東京では約 66 万人、京都では約 45 万人にのぼる来場者を迎えた。東京だけではなく、京都へも巡回したことで、広く国民に美術鑑賞の機会を提供することができた。

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

■展示作品の充実

本制度の適用により、日本初来日となるフェルメール《天文学者》の出展が実現した。軽減された経費は、フェルメール作品にかかる追加費用、特注のガラスケース・クレートの制作、作品単独輸送時の警備を初めとした経費や借用料の一部に充当した。

■観覧料の無料化

[国立新美術館]

通常実施の中学生以下無料に加えて、春休み期間と重なる 3 月 18 日(水)ー4 月 6 日(月)まで、高校生無料観覧日を 18 日間設け、期間中 5,274 名の高校生が来場した。当初目標の 7,000 人は下回ったが、ジュニア向け小冊子の作成・無料配布などの実施で、国民への利益還元を図った。

[京都市美術館]

小中学生は会期中、日曜・祝休日は無料とし、会期を通して 9,440 名の小中学生に無料鑑賞の機会を提供した。当初目標は 10,000 人であったが、一定の役割は果たせたと考える。

■鑑賞機会の拡大

東京では 5 月 7 日(木)、26 日(火)を臨時開館とし、4 月 25 日(土)は 22 時まで、会期末の 4 日間は 20 時までの夜間延長開館を実施した。京都では、会期末の 2 日間 20 時までの夜間延長開館を実施し、適正な鑑賞環境の保持に留意しながら、鑑賞機会の提供に努めた。

■教育普及活動の充実

[国立新美術館・京都市美術館]

ジュニア版音声ガイドを作成。人気のアニメキャラクターが、風俗画の謎を解くという内容は、作品の見方を子どもたちにも分かりやすく伝えることとなり、楽しく学べるガイドとして高評価を得た。また、東京ではジュニア向けの小冊子「ルーヴル美術館展ジュニアガイド」を作成し、会場にてほぼ会期終了時まで 35 万部の無料配布を行った。

[国立新美術館]

1) アート・トーク 「ルーヴル美術館展 アート・トーク」
「東京暇人～TOKYO hi-IMAGINE～」公開収録
日時: 2015 年 3 月 20 日(金) 18:00ー19:00
出演: 山田五郎、平野綾
参加人数: 260 名

2) 講演会 「風俗画の魅力—レンブラントとフェルメールの時代」
日時: 2015 年 4 月 12 日(日) 14:00ー15:30
講師: 尾崎彰宏(東北大学大学院教授)
参加人数: 257 名

3) 対談 「天文学者×占星術師 フェルメール《天文学者》をめぐって」
日時: 2015 年 4 月 18 日(土) 14:00－15:30
対談者: 渡部潤一(自然科学研究機構国立天文台副長)、鏡リュウジ(占星術研究家)
参加人数:179 名(事前申込制)

4) 講演会「17・18 世紀 フランスの風俗画」
日時:2015 年 5 月 9 日(土) 14:00－15:30
講師:宮島綾子(国立新美術館主任研究員)
参加人数:226 名

[京都市美術館]
1) 記念講演会「フェルメールへの旅 ー絵を見る悦び、見に行く愉しみ」
日時: 2015 年 7 月 4 日(土) 14:00－15:30
会場: 京都市美術館講演室
講師: 有吉玉青(作家・大阪芸術大学教授)
参加人数:80 名

2) 記念講演会「北方ルネサンス美術の巨匠マセイスが描く日常
—《両替商とその妻》を中心に」
日時: 2015 年 7 月 25 日(土) 14:00－15:30
会場: 京都市美術館講演室
講師:平川佳世(京都大学大学院文学研究科准教授)
参加人数:80 名

3) 展覧会解説講座「ルーヴル美術館展の見どころ」
日時: 2015 年 8 月 8 日(土)、22(土)、9 月 5 日(土) 14:00－15:00
会場: 京都市美術館講演室
講師: 後藤結美子(京都市美術館学芸員)
参加人数: 合計 250 名

4) 夜間開館特別企画「ルーヴル美術館展 夜のギャラリートーク」
日時: 2015 年 9 月 20 日(日) 18:30－19:30
会場: 京都市美術館講演室
講師: 潮江宏三(京都市美術館長・京都市立芸術大学名誉教授)
参加人数: 80 名

5) 特別ワークショップ「フェルメール・ブルーを身につけよう」
日時: 2015 年 8 月 1 日(土) 10:00－12:00 14:00－16:00
会場: 京都市美術館講演室
講師: 小島亜伊(七宝作家)
参加人数: 合計 40 名

3. 事故の有無（軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む）

特になし。

4. 安全配慮に関する特別の対応

■全作品の結界設置はもちろんのこと、来場者数の増加に対応して、安全確保のために結界の補強や、誘導方法の変更、運営スタッフの増員など柔軟な対応をとり、来場者と作品の安全を確保した。

■展示方法について事前に所蔵館と詳細な打合せを重ね、作品保全・防犯対策を強化した。マイクロクライメートボックスを装備した小作品（板絵）については、ボックスよりも厚みのあるバックパネルを作成し、その中央にうがった穴にボックスをはめ込んでパネルに完全に固定したのち壁に展示する方法をとった。これは、展示作業時にボックス面が壁に不用意に当たって損傷や振動を受ける危険性を回避できるとともに、作品の瞬時の取り外しを防ぐことができるため、作品保全と盗難防止を兼ねる展示法でもあった。その他の作品は、盗難防止リング・結界設置のほか、アクリルケースないしアクリル板の設置、Tプレートによる額の壁固定、防犯アラームの取り付けを、作品・額の形状に応じて行い、二重に防犯対策を講じた。

■作品輸送時は、1トラックに対しドライバー2名の体制をとり、夜間走行をしないなど、安全面確保に努めた。

5. 紹介事例・今後の改善点等

本制度適用により実現したといえる、フェルメールの《天文学者》の初来日を初め、ヨーロッパ風俗画の歴史を展覧するにふさわしい名品 83 点を紹介することができたことは、国民への優れた美術鑑賞機会の提供、国際文化交流の推進という、制度の趣旨に合致するものである考える。ルーヴル美術館も本制度の趣旨を理解し、制度適用へ向けて協力的であった。

本制度の適用については、展覧会チラシ、ポスター、ホームページ、会場入り口看板での告知に努めた。国立新美術館での高校生無料観覧日、京都市美術館での日・祝休日の小中学生無料期間なども、決定後速やかに印刷物・WEB への記載に努め制度の告知を行った。

無事に展覧会を終了することはできたが、今後も作品と来場者の安全面に配慮した会場構成、会場運営をより一層心がけたい。

6. 展覧会の収支決算書

国立新美術館

●収入　　万円

内訳	決算額
展覧会収入・その他の収入	¥115,824
収入総額	¥115,824

●支出　　万円

内訳	決算額
企画準備等基本経費	¥74,083
設営・運営等会場館経費	¥41,741
支出総額	¥115,824

京都市美術館

●収入　　万円

内訳	決算額
展覧会収入・その他の収入	¥53,840
収入総額	¥53,840

●支出　　万円

内訳	決算額
企画準備等基本経費	¥30,700
設営・運営等会場館経費	¥23,140
支出総額	¥53,840